

平成29年度12月定例記者会見 会見録

日時 平成29年12月22日（金）午後2時00分～2時25分

場所 市役所2階第1特別会議室

（市長）

はじめに、さきほど閉会いたしました12月定例会議についてでございます。11月21日から32日間、ご審議をいただき、提案いたしましたすべての案件につきまして、ご議決をいただきました。議員の方々からは、子ども・若者未来基金や給付型奨学金制度の創設をはじめ、平成30年度予算編成方針、淵野辺駅南口周辺公共施設再整備・地域活性化基本計画（案）、12月補正予算など、多岐にわたる質疑等をいただきました。市といたしましても、引き続き、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

さて、本日は、今年の締めくくりの会見でございますので、一年間の主な出来事を振り返ってみたいと思います。

今年は、相模原市内に練習拠点のある青山学院大学 陸上競技部が、正月恒例の箱根駅伝で3連覇という、晴れやかな1年のスタートとなりました。

市政においては、今年も様々な取り組みを進めてまいりました。「さがみはら新都心」の実現に向けては、4月、相模総合補給廠の一部返還地において、将来の新市街地の主要道路となる南北道路が開通し、本格的なまちづくりの第一歩を踏み出したところでございます。

また、子どもや若者が、将来に向けて夢や希望を持ち、自立・活躍ができるよう、新たに「子ども・若者未来局」を設置いたしました。新たな局には、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を実施するため、各区に「子育て支援センター」を設置し、ライフステージに応じた施策を一体的に進めております。近年、子どもを取り巻く環境は、いじめや虐待、貧困など、複雑で困難な問題が数多くございます。こうした、様々な課題を抱える子どもたちへの支援についても教育委員会との連携を強化し取り組んでいるところでございます。

6月には、2020年に開催される東京オリンピックの事前キャンプについて、ブラジルオリンピック委員会や日本オリンピック委員会と覚書を締結いたしました。これにより、相模原市内で、女子サッカーや女子バレーボールなど、8競技のブラジル代表選手団が事前キャンプを行うこととなります。今月11日には、ブラジルの「ホストタウン」としての登録も完了いたしました。今後は、事前キャンプ実施に向けたスポーツ環境の整備や、市民との交流事業の検討など、より具体的な取り組みを進めてまいりたいと思っております。

7月には相模女子大学グリーンホールで県と本市、かながわ共同会の共催により、津久井やまゆり園事件の追悼式を実施しました。ご遺族や多くの関係者の皆様とともに、事件で亡くなられ

た方々を追悼し、こうした事件が二度と繰り返されることのないよう、共に生きる社会の実現に向け決意を新たにしました。

8月には「銀河連邦」の建国30周年を記念して、「こどもワールドサミット」を開催しました。サミットでは、国内外から参加した子どもたちが「100年後の宇宙と地球」について語り合い、夢と希望に満ちたメッセージを発信してくれました。言葉や文化の壁を越えて子どもたちが交流し、未来を考えるすばらしい機会となりました。

そのほか、共に支え合う地域社会の実現に向けた福祉や人権等の施策の推進や、防災力の向上、医療体制の充実、教育環境の整備、産業の集積、就労支援など、各分野の施策を総合的に推進することができました。

この1年間、報道機関の皆様には、多方面にわたりご協力をいただき、誠にありがとうございました。

さて、今年1年を振り返り、漢字1文字で表しますと、「結（ぶ）」という文字となるかと思えます。市民の長年の取組が実を結び、相模総合補給廠一部返還地を南北に結ぶ道路が開通したことや、オリンピックの事前キャンプについて、ブラジルと覚書を結ぶことが出来たこと、銀河連邦結成30周年を迎えたこと、その他、子育て支援やまちづくりなど、現在と未来の本市を結ぶ事業を進めることが出来たことから「結」、「結ぶ」という字を選びました。

来年も引き続き、市民の皆様一人ひとりが将来に夢や希望を持つことができ、安全で安心して心豊かに暮らすことができる地域社会の実現に向け、全力で取り組んでまいりますので、市政へのご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

私からは以上でございます。

(記者)

リニア中央新幹線の工事に係る不正入札等について、大手ゼネコンが捜査を受けていることについて市長はどう感じていますか。

(市長)

東京地検特捜部が大手ゼネコンに強制捜査を行っているとの報道は承知しておりますが、市としては報道されている以上の情報は把握しておりません。本市内にもリニアの駅等の工事が予定されておりますが、JR東海から現在行われている準備工事は予定どおり進めていくと聞いており、本市としては今後の動向を注視していきたいと思っております。

(記者)

今後、不正を行ったとされる事業者が、独占禁止法違反等で排除勧告等を受けた場合、市の工事入札に参加出来ないようにすることなどを検討されていますか。

(財務部長)

捜査の状況や結果によりますが、本市には競争入札参加資格者指名停止のルールがございます

ので、そのルールに該当するような事になれば、指名停止することになります。

(記者)

事業者による談合が行われた結果、工事経費が高額になり、利用者の運賃に跳ね返ってくるようになりますが、料金が高くなれば相模原市に来る人も減ることになるのでは。

(市長)

そうですね、リニア中央新幹線は多くの人に利用していただきたいですし、神奈川県では駅ができるのは相模原だけですから、広域的な連携の中で首都圏南西部の拠点として多くの人に訪れていただけるよう、順調に事業が進んでほしいと思っております。

(記者)

現時点で、工事に遅れが発生する可能性はありますか。

(市長)

神奈川県駅については準備工事は順調に進んでおり、これから工事が本格化していくことになるという事ですが、JR東海からは、予定どおり事業を進めていくというお話をいただいております。

(記者)

リニア中央新幹線の関連でお伺いします。長野県の大鹿村で、山間部のトンネル工事に伴って土砂崩落があったということです。相模原市は津久井地域で山間部のトンネル工事が予定されていると伺っていますが、大鹿村の事例を踏まえ、どのように思いますか。

(市長)

トンネル工事につきましては、地下水脈や土砂の搬出等、様々な問題が想定され、市民の皆様にもご心配を頂いているわけがございます。現在本市では土砂崩落等、具体的事象は生じておりませんが、工事を進めていく中で地域住民に不都合を生じる可能性があれば、JR東海に安全対策を講じていただくよう申し入れ、必要な対応をしていただくという事になると思います。

(記者)

本日、市議会で議員提案による条例「相模原市安全に安心して自転車を利用しようよ条例」が成立しましたが、市としてどのように受け止めていますか。

(市長)

従来から本市の中央区、南区は自転車交通事故多発地域に指定されており、自転車事故を無くそうと、子どもをはじめとした市民を対象に、交通安全教室や啓発等、様々な事業を展開してきております。今回の議員提案による条例が制定されたことにより、自転車を利用される方一人ひとりが、交通安全に対する意識を高めていくことに繋がると思います。条例の趣旨を踏まえ、さらに関係団体と連携し、安全なまち、相模原を作り上げていくよう努力してまいります。

(記者)

安全なまち、相模原をつくるというのは、道路などのハード面を整備するという事ですか。

(市長)

自転車利用者一人ひとりが安全に対する意識を高め、交通ルールを守ってもらう事が条例の趣旨となります。自動車に対しては厳しい規制もあり、運転者の意識も高いですが、最近では自転車でも死亡に繋がるような重大な事故などが発生しており、危険意識の向上や交通マナーなどをしっかりと身に付けていただく必要があります。特に子どもは幼い時から自転車に乗る機会が多く、警察や関係団体とも連携して、小学校等で自転車の安全な乗り方の教室等を開催しておりますが、これらの内容も精査しながら、より交通ルールが身に付くような啓発をしっかりとやっていきたいと思っております。

(記者)

この条例は、ヘルメットの着用や、自転車損害賠償保険等へ加入することを義務付けるものであるため、市民に保険料を負担してもらう事になると思いますが、生活が苦しい家計には負担となると思います。市として何か対策はありますか。

(市長)

道路交通法で、幼児や児童にヘルメットの着用をさせることを努力義務としていることや、自転車利用中に死亡に繋がるような事故等により、高い賠償額を請求された事例があることから、損害賠償保険等に加入することは、被害者、加害者の経済的な負担を軽減することにもつながるもので、費用負担につきましては自転車利用者ご自身にご負担いただくことが適切であると考えております。ただし、生活保護受給世帯については、通学や仕事で自転車が必要な場合、自転車の防犯登録や自転車保険の加入費用については金銭的負担がないようにしており、その制度の中で対応できるものと考えております。

(記者)

他の自治体では小学校5年生以上を対象に行政が保険料等を支給するところもあると聞いておりますが、今後、そのような支援策を検討しますか。

(市長)

ここで条例が制定されましたので、安全対策や自転車マナー等をしっかりと守って頂く事が優先されると思います。条例の趣旨にあるルールが守られることで、事故が減少すると思っておりますが、経過を見る中で、保険料の支援を行うことによって、さらに安全性が高まることや、自転車交通マナーが身に付くということであれば、支援策についても考えていくことになると思います。

(記者)

交通安全対策を進めていく中で、改めて鹿沼公園の児童交通公園は重要視されるべきだと思

ます。淵野辺駅南口の公共施設集約化の計画案では、施設の規模など具体的なことは示されてお
りませんが、既存の施設があるにもかかわらず、新たに整備する必要があるのでしょうか。

(市長)

鹿沼公園の中にある児童交通公園は多くの方に利用されております。子どもの利用度が高く、
小さい頃から自転車を含めた交通ルールを体験してもらう場として大変重要な役割を果たして
きたと思っております。老朽化した部分もあることから再整備を検討しておりますが、今より使
いやすい交通公園、そういったものにしていく必要があると思っております。

(記者)

利用者が一番心配しているのは児童交通公園の規模だと思いますが。

(市長)

公共施設の集約化という事で、公園の園地としての面積等が削減されるのではないかと
いうご心配があるのだと思います。現在、基本構想の段階ですから、これからそれぞれの施設利用
者の意見を聞きながら計画を作っていきます。集約化するメリットは、共通の施設で運用する
ことで、経費の削減や運営の効率化が図れる事だと思います。ただ、施設を集約化することで、
現在の機能が後退するようでは困りますので、それを念頭に置きながら、各施設の利用者に再
整備されて良かったなと思っただけのような施設にしていきたいと思っております。今回、議
会も含めまして、多様な意見をいただいており、今後も説明会の開催や、施設ごとの意見も
聞いてまいります。

(記者)

今のお話では、この児童交通公園については、今回の公共施設集約化計画の中では後退させ
ないを受け止めてよろしいですか。

(市長)

ええ、構いません。

(記者)

皇后杯全日本女子サッカー選手権大会で、ノジマステラ神奈川相模原が決勝に進みました。
その活躍についていかがですか。

(市長)

ノジマステラ神奈川相模原は結成6年目の今シーズン、なでしこリーグ1部で活躍されました。
残念ながら上位の成績は残せませんでした。来シーズンも1部でプレーできますので、更なる
活躍を期待したいと思っております。ノジマステラは現在行われている女子サッカーで最も大
きな大会である皇后杯全日本女子サッカー選手権大会で決勝に残りました。しかも、なでしこ
リーグ1部では苦戦してきたチームを撃破して勝ち上がったという事は大変価値があり、力
が付いてきたという事が証明されたと思っております。是非、決勝で勝利し、日本一の栄冠を手にし

ていただければと思っております。尾山キャプテンら、創設の時から苦楽を共にしてチームを作り上げてきた4選手が今季限りで引退すると聞いておりますので、引退の花道を選手一丸となって作ってくれば、本当に嬉しい事だと思っております。

以 上